

株式会社FRONTEO 第15回定時株主総会継続会 質疑応答内容

※当社が株主総会継続会で行った事業にかかわるご説明を、ご出席いただいた株主様以外にも広く開示する趣旨で、この質疑応答内容を掲載します。そのような趣旨から、ご意見ならびに会議の目的事項と関係がないと判断される事項等は割愛しております。また、質疑応答内容につきましては、適宜整理・要約させていただいております。なお、発言された株主様の氏名は、公表を控えさせていただいております。

質問：連結だけではなく、親会社、子会社単体の利益について説明が欲しい。

例えば米国拠点単体の収益などを知りたい。

回答：e ディスカバリ事業は、各拠点でビジネスが完結する構造ではありません。対象となる訴訟等は全て米国で発生しているため、米国子会社の役割とは、米国で獲得した案件の作業に加えて、日本や韓国、台湾などのアジアの拠点の営業サポートをする（売上高は日本や韓国、台湾で計上）、アジア拠点が獲得した案件のe ディスカバリの作業をするなど、多岐にわたります。最終的な証拠提出も全て米国で行われておりますので、e ディスカバリ事業はグローバルで見ると状況が正しく把握できるという構造になっています。このため、2018年3月期末よりリーガルテック事業として1つにまとめて開示しており、米国拠点単体の収益について開示をしておりません。

質問：配当見通しについて教えてほしい。

回答：2018年3月期は配当見送り、2019年3月期は配当3円という見通しを発表しております。

質問：AI ソリューション事業の中期の売上高の見通しを教えてください。

回答：2020年度については連結売上高300億円のうちAIソリューション事業の内訳は120億円の見通しでございます。

質問：AI 技術への投資額と、技術水準について、現状どの程度効率化ができているのかを教えてください。

回答：ソフトウェアへの投資額についてはキャッシュアウトベースで年間5億円程かけております。

技術水準についてですが、一般的に人手がかかるのは「人工知能に学ばせ

る部分」になりますが、我々の KIBIT は手間がかからない効率の良さが特徴で、場合によっては 2~3 時間で学習させることができます。

また、KIBIT が解析するので、人の作業より大幅に効率化できます。言語の対応ですが、日本語に加え、韓国語、中国語、もちろん英語も対応しております。言語解析においては、当社が圧倒的な優位性と実績がございます。

画像については既存の他社技術と組み合わせるということを考えており、当社ではこの画像の解析は取り組んでおりません。

まだ AI による完全な自動化は難しい状況ですが、ある工程で人が文章を読んで判断をすることに時間をかけすぎているということはあらゆる業種・分野で見られまして、当社の KIBIT を活用することで大幅に改善するということを実現しております。

今後も継続して当社の技術情報や実績をお伝えしてご理解を深めていただくよう努力してまいります。

質問：米国子会社の買収時に行ったデューデリジェンスは十分だったか、米国子会社の経営陣の責任はどのように考えているか教えてほしい。

回答：米国子会社の買収については、確かに内部統制の問題や利益体質の問題はございました。一方、買収時の買収企業の売上高は伸びています。その成長ピッチや体制については必ずしも当初想定していた通りではありませんでしたので、改善のために子会社における経営陣の交代や人員削減を伴う構造改革を実行してまいりました。

様々なチャレンジのなかで、困難もございましたが、築いた体制を今後の成長に繋げて行きたいと考えております。

質問：使用人（従業員）が 124 名と大幅に減少しているのはなぜか、また、その影響はないのでしょうか？

回答：米国子会社における構造改革に伴い人員削減を行ったものです。

本来、米国子会社を買収して推進をしようと考えていたアジア企業の大型案件を獲得するために必要な人員、能力や志向が一致している人材が残っているため、問題はございません。当社は、技術を使ったさらなる効率化を目指しており、体制は改善されていると考えております。

以上